

### 手ブレ補正機構搭載の中望遠単焦点レンズ“RF135mm F1.8 L IS USM”を発売 優れた描写性能と大きく美しいボケ味により表現豊かなポートレート撮影を実現

キヤノンは、「EOS R システム」の交換レンズ「RF レンズ」の新製品として、プロ・ハイアマチュアユーザー向けの大口徑中望遠単焦点レンズ“RF135mm F1.8 L IS USM”を2023年1月下旬に発売します。



RF135mm F1.8 L IS USM



大きく美しいボケ味を生かした表現が可能

“RF135mm F1.8 L IS USM”は、描写性能や操作性、堅牢（けんろう）性などで最高水準の性能を追求した「L（Luxury）」レンズです。L レンズならではの優れた描写性能や、F1.8 の明るい開放絞り値による大きく美しいボケ味、高い手ブレ補正効果により、表現豊かなポートレート撮影を実現します。焦点距離 135mm、大口徑 F1.8 の単焦点レンズを「EOS R システム」のラインアップに加えることで、ユーザーの多様なニーズに応えます。

#### 1. L レンズならではの優れた描写性能と F1.8 の明るい開放絞り値による大きく美しいボケ味

「UD レンズ<sup>※1</sup>」3 枚を含む 12 群 17 枚の光学設計により、画質劣化の原因となる諸収差を低減することで、画面全域で高画質を実現しています。また、F1.8 の明るい開放絞り値による大きく美しいボケ味と中望遠レンズ特有の圧縮効果により、被写体を際立たせた奥行き感のあるポートレート撮影を実現しています。さらに、9 枚羽根の円形絞りを採用することで、背景の点光源を丸く大きなボケで表現することも可能です。

#### 2. レンズ内手ブレ補正により 5.5 段<sup>※2</sup>、ボディ内手ブレ補正との協調制御により 8.0 段<sup>※3</sup>の手ブレ補正効果

レンズ内光学式手ブレ補正機構により 5.5 段、ボディ内手ブレ補正機構を搭載している EOS R シリーズのカメラ<sup>※4</sup> との組み合わせでは、カメラとレンズによる協調制御を実現し、「EOS R3」（2021 年 11 月発売）装着時は 8.0 段の手ブレ補正効果を発揮します。暗いシーンや手持ちでの撮影においても、手ブレを抑えた撮影が可能です。

#### 3. レンズファンクションボタンなどの搭載により快適な静止画・動画撮影を実現

超望遠レンズ以外ではキヤノン初となる、レンズファンクションボタンを 2 個搭載しています。初期設定では、AF ストップボタンとして機能し、AF 中にボタンを押すと AF を一時中断することができるため、撮影距離を保持したい場合やサーチ駆動を避けたい場合に有用です。また、露出補正や絞り数値の設定などを任意に割り当てて使うことができるコントロールリングを搭載しています。電子ビューファインダー（EVF）で撮影後のイメージを確認しながらコントロールリングを操作することで、より直感的で快適な撮影が可能です。

※1. UD（Ultra Low Dispersion = 特殊低分散）ガラスを用いたレンズ。

※2. 「EOS R」使用時、CIPA 規格に準拠（Yaw/Pitch 方向）。

※3. 「EOS R3」使用時、CIPA 規格に準拠（Yaw/Pitch 方向）。

※4. 協調制御対応カメラはキヤノン公式 WEB サイトをご確認ください。

製品名	希望小売価格	発売日
RF135mm F1.8 L IS USM	オープン価格	2023 年 1 月下旬

---

一般の方のお問い合わせ先  
EOS ホームページ

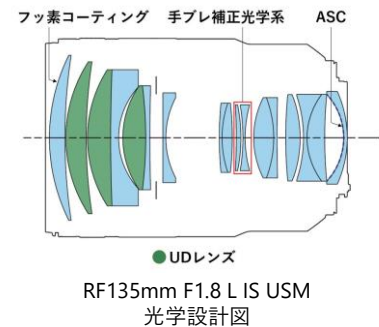
: キヤノンお客様相談センター  
: [canon.jp/eos](https://canon.jp/eos)

0570-08-0002

## 〈“RF135mm F1.8 L IS USM”の主な特長〉

### 1. Lレンズならではの優れた描写性能と F1.8 の明るい開放絞り値による大きく美しいボケ味

- 「UD レンズ」3 枚を含む 12 群 17 枚の光学設計。「UD レンズ」を効果的に配置することで、画質劣化の原因となる諸収差を低減し、画面全域で高画質な描写を実現。
- 特殊コーティング「ASC（Air Sphere Coating）」を採用することで、レンズ内の光の反射が撮影画像に入り込んでしまうフレアやゴーストの発生を低減。
- F1.8 の明るい開放絞り値による大きく美しいボケ味と中望遠レンズ特有の圧縮効果により、被写体を際立たせた奥行き感のあるポートレート撮影を実現。被写体との距離が必要な全身撮影でも、背景を美しくぼかした撮影が可能。
- 9 枚羽根の円形絞りの採用により、背景の点光源を丸く大きなボケで表現することが可能。
- F1.8 の明るい開放絞り値により、速いシャッタースピードに設定できるため、低照度下でもブレを抑えた撮影が可能。ポートレート撮影に加え、暗い室内でのスポーツ撮影など、高速シャッターが必要なシーンにも好適。
- 最大撮影倍率 0.26 倍、最短撮影距離 0.70m の近接撮影に対応。ポートレートだけでなく、昆虫や小動物といった被写体と適度な距離が必要なネイチャーフォトなど、幅広いシーンでの撮影が可能。



圧縮効果を生かしたポートレート撮影



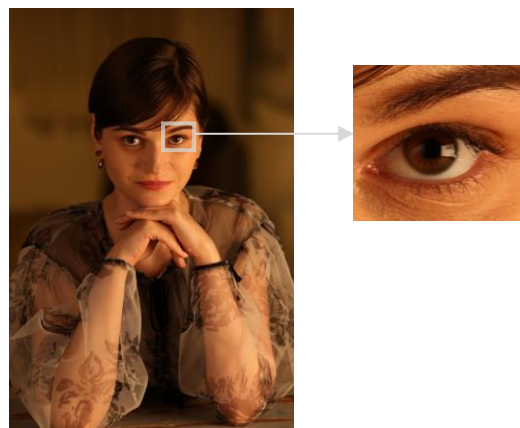
点光源を丸く大きなボケで表現



暗い室内でのスポーツ撮影にも好適

### 2. レンズ内手ブレ補正により 5.5 段、ボディ内手ブレ補正との協調制御により 8.0 段の手ブレ補正効果

- レンズ内光学式手ブレ補正機構により 5.5 段の手ブレ補正効果を実現。
- ボディー内手ブレ補正機構を搭載している EOS R シリーズのカメラとの組み合わせでは、カメラとレンズによる協調制御を実現。「EOS R3」装着時は 8.0 段の手ブレ補正効果を発揮。
- EOS R シリーズのカメラに搭載された瞳検出 AF と高い手ブレ補正効果により、低照度下の撮影でも、瞳を美しく描写することが可能。



低照度下でも、瞳を美しく描写することが可能

### 3. レンズファンクションボタンなどの搭載により快適な静止画・動画撮影を実現

- 超望遠レンズ以外ではキヤノン初となる、レンズファンクションボタンを 2 個搭載。2 箇所を設置したことで、縦／横位置の両方で快適な操作性を実現。初期設定では、AF ストップボタンとして機能し、AF 中にボタンを押すと AF を一時中断することができるため、撮影距離を保持したい場合やサーチ駆動を避けたい場合に有用。また AF 設定に加え、露出補正や ISO 感度設定の割り当てが可能。
- 露出補正や絞り数値の設定などを任意に割り当てて使うことができるコントロールリングを搭載。電子ビューファインダー（EVF）で撮影後のイメージを確認しながら、コントロールリングを操作することで、より直感的で快適な撮影が可能。
- 超音波モーター「ナノ USM」により、静止画撮影時の高速 AF と動画撮影時の滑らかな AF を実現。
- フォーカス位置を変更する際に画角変化が生じてしまう「フォーカスブリージング」を補正する「フォーカスブリージング補正機能<sup>※1</sup>」に対応。画角変化の少ない安定した構図での撮影が可能で、フォーカス後に構図調整をする手間が少なくなり、快適な動画撮影を実現。

※1. 「EOS R6 Mark II」（2022 年 12 月中旬発売予定）のみ対応。2022 年 11 月 2 日時点。



レンズファンクションボタンを搭載

### 4. L レンズにふさわしい高い耐久性と信頼性

- マウント接合部、スイッチ、フォーカスリングなどに防じん・防滴構造を採用<sup>※1</sup>。
- レンズ最前面に油や水滴が付着しにくいフッ素コーティングを採用。レンズに付着した油分なども溶剤を使わずに乾いた布などで簡単に取り除くことが可能。

※1. 防じん・防滴に配慮した構造になっていますが、砂じんや水滴などの侵入を完全に防ぐことはできません。



防じん・防滴箇所

#### 〈製品仕様について〉

製品仕様の詳細はキヤノンホームページをご参照ください。<https://cweb.canon.jp/eos/rf/lineup/rf135-f18/>